

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平2-50517

⑬ Int. Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)4月9日

F 16 C 41/00  
B 60 B 35/18  
B 60 T 8/00  
F 16 C 33/78  
G 01 P 3/44

Z  
Z

6814-3 J  
7006-3 D  
8510-3 D  
6814-3 J  
7355-2 F

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全2頁)

⑮ 考案の名称 回転速度検出用転がり軸受

⑯ 実 願 昭63-129944

⑰ 出 願 昭63(1988)10月5日

⑱ 考 案 者 大 内 英 男 神奈川県相模原市若松2-10-12

⑲ 出 願 人 日本精工株式会社 東京都品川区大崎1丁目6番3号

⑳ 代 理 人 弁理士 小山 欽造 外1名

㉑ 実用新案登録請求の範囲

- (1) 同心円状に配置された1対の軌道輪の間に複数個の転動体を配置し、回転側となる一方の軌道輪の周面にセンサロータを、固定側となる他方の軌道輪の周面にセンサを、互いに対向する状態でそれぞれ固定した回転速度検出用転がり軸受に於いて、上記1対の軌道輪の一端側に、それぞれ円輪状に形成されたシール板を、互いに間隔をあけた状態で装着して、両シール板の間に密閉空間を形成し、この密閉空間内に、上記センサロータとセンサとを配置した事を特徴とする回転速度検出用転がり軸受。
- (2) センサロータが、円周方向に互つてN極とS極とを交互に着磁した永久磁石であり、センサがホール素子である、請求項1に記載された回転速度検出用転がり軸受。

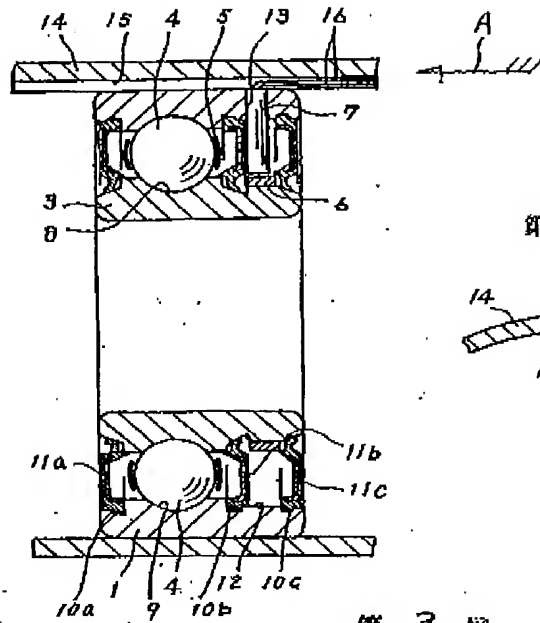
- (3) センサロータが、センサと対向する周面に円周方向に互つて凹凸を形成した磁性材製で、センサが磁性材の周面との距離変化に伴なって発電する、自己発電型である、請求項1に記載された回転速度検出用転がり軸受。

図面の簡単な説明

第1～2図は本考案の実施例を示しており、第1図は断面図、第2図は第1図のA矢視図、第3図は従来の回転速度検出用転がり軸受を組み込んだ車輪支持部分の断面図である。

1：外輪、2：フランジ、3：内輪、4：転動体、5：保持器、6：センサロータ、7：センサ、8、9：軌道、10a、10b、10c：係止溝、11a、11b、11c：シール板、12：密閉空間、13：通孔、14：ケーシング、15：凹溝、16：導線。

第 1 図



第 2 図



第 3 図

